

北海道認知症介護実践リーダー研修シラバス

科目名	認知症介護実践リーダー研修の理解	研修形態と講義時間：講義・演習（60分）
目的	チームにおける認知症ケアを推進する実践リーダーの役割と研修科目との関係性を踏まえ、研修の概要を把握する。実践リーダーとしての自己の課題を確認し、研修における学習目標を明確にする。	
到達目標	1. 実践リーダーの役割と研修科目との関連性を踏まえて研修の概要を把握できる。 2. 実践リーダーとしての課題を自覚し、研修における学習目標が明確になる。	
概要	チームにおける認知症ケアを推進する実践リーダーに求められる役割を知り、研修科目の必要性や研修全体の目的など研修概要を把握する。また、実践リーダーとしての自己課題を確認し研修の受講動機を高め、学習目標を明確にする。	
内 容		備 考
1. 実践リーダーの役割	認知症ケアにおけるチームケアを推進する実践リーダーの役割や方法を把握し、実践リーダーとしての役割を学ぶ事の必要性和重要性を理解する。 1) チーム構築における役割 2) チーム理念の構築 3) ストレスマネジメント 4) ケースカンファレンスの促進 5) チームアプローチの促進 6) 職場における指導	・認知症ケアを推進するための実践リーダーの役割のポイントを知る。
2. 実践リーダー研修の概要	実践リーダーの役割と実践リーダー研修の目的や科目との関係を踏まえながら、研修目的やカリキュラムの必要性を理解する。 1) 研修の目的 2) 研修の到達目標 3) カリキュラム全体の構成 4) カリキュラム別のねらいと概要	・実践リーダー研修のねらいや科目のねらいと内容を理解する。
3. 実践リーダーとしての課題の明確化	実践リーダーとしての役割を踏まえて、現在の実践リーダーとしての課題を考察し、研修での学習目標を明確化する。 1) 実践リーダーの自己課題の明確化 2) 研修における学習目標の明確化	・受講者の現状と課題、学習目標を文章化する。

科目名	認知症の専門的理解	研修形態と講義時間： 講義・演習（120分）
目的	認知症の原因となる疾患別の容態、薬物治療、対応方法等に関する最新かつ専門的な知識を理解する。	
到達目標	1. 認知症の病態に関する最新かつ専門的な知識を理解できる。 2. 認知症治療に関する最新の知識を理解できる。 3. 認知症の病態に応じた対応のポイントを理解できる。	
概要	認知症に関する研究は年々進展している。認知症におけるチームケアの促進や実践者の指導を担う実践リーダーは最新の知識を有し、同時に認知症に関する専門的な知識を活用したケアの実践、実践者の指導、チームケアの向上が求められている。本科目は、認知症ケアにおける実践リーダーに必要な認知症に関する最新の知識の修得や専門性の向上を目的とし、認知症の病態、薬物治療、対応方法等に関する専門知識を理解する。	
内 容		備 考
1. 認知症の病態に関する理解	認知症の病態について最新かつ専門的な知識を理解する。 1) 認知症の原因疾患と発生機序 2) 疾患別の中核症状と行動・心理症状（B P S D） 3) 認知症に起きやすい合併症	・医学的な観点から、中核症状に留意した対応のポイントを理解する。
2. 認知症や関連病態の診断基準、鑑別診断の方法	認知症と関連する病態の診断方法を理解する。 1) 認知症の診断基準、検査 2) 原因疾患別の鑑別 3) 若年性認知症の特徴 4) M C I の診断基準	
3. 認知症に対する最新の薬物療法、その他の介入方法	認知症への治療薬とその他の介入方法について理解する。 1) 認知症治療薬 2) 行動・心理症状（B P S D）に対する薬物の主な作用機序と副作用、使用方法 3) 行動・心理症状（B P S D）の予防に関する薬物治療 4) その他の介入方法	
4. 原因疾患別の対応のポイント	認知症の原因疾患別の特徴を踏まえた上での対応のポイントや留意点について把握する。	
5. 認知症を取りまく今日的課題	認知症に関する社会的な課題等について理解する。 1) 認知症の告知 2) 若年性認知症の社会生活と就労 3) 認知症の在宅ケア 4) 認知症のターミナルケア	

科目名	認知症ケアに関する施策の動向と地域展開	研修形態と講義時間： 講義・演習（240分）
目的	地域包括ケアシステムにおける認知症施策の変遷と最新の動向を理解する。地域における認知症施策の展開例を知り、地域包括ケアシステムの構築に必要な関係機関との連携・参画できるための知識を修得する。	
到達目標	1. 認知症施策の変遷を理解できる。 2. 認知症ケアに関連する最新の施策の動向を理解できる。 3. 認知症施策の具体的な実施方法を理解できる。	
概要	昨今、認知症に関連する制度の整備は進んできており、特に、実践リーダーは地域包括ケアシステムの展開例を知り、スタッフに説明、指導できる事が必要である。本科目は、認知症施策の動向の理解とその実践を目的とし、認知症施策の変遷と最新の動向についての理解や地域における施策の展開例を知り、周辺地域における地域包括ケアシステムの構築や関係機関との連携体制の構築に参画できるための知識の修得を目的とする。	
内 容		備 考
1. 認知症施策の変遷	過去から現在までの我が国における認知症施策の変遷を知り、認知症施策の動向を把握する。	
	1) 認知症施策の歴史 2) 認知症の人やその家族の視点を踏まえた施策	
2. 認知症施策の動向と新オレンジプランの内容	最新の認知症施策に関する国の動向や方向性を理解する。	
	1) 認知症施策推進5か年計画（オレンジプラン）の策定 2) 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）の策定とその内容 3) 新オレンジプランと地域包括ケアシステム	
3. 地域における認知症施策の展開	認知症施策を踏まえた上で、地域における認知症施策の実情を知り、地域での展開方法を学ぶ。	・施策の動向について地域における実践例を知り、実践リーダーの役割を理解する。
	1) 認知症ケアの実践と施策の関係 2) 地域の認知症施策の把握 3) 地域における認知症施策の展開方法 4) 地域における実践リーダーの役割	

科目名	認知症介護実践リーダーの役割	研修形態と講義時間： 講義・演習（180分）
目的	チームの構築や活性化のため、実践リーダーとしての役割を理解し、円滑にチームを運用する者であることの自覚を促す。	
到達目標	1. チームにおける実践リーダーの役割を理解できる。 2. チームの意味や目的、種類を理解しチームの特徴を理解できる。 3. チームの構築や活性化のための基本的な考え方や方法を理解できる。	
概要	チームによる認知症ケアの向上において、実践リーダーはチーム構築や活性化を促進する役割が期待されている。本科目ではチーム方針の設定と管理、実践者のストレスマネジメント、情報共有のためのカンファレンスの実施、チームメンバーの編成、実践者への動機づけ、教育や指導に関する基本的な考え方と方法について学習し、リーダーとしてチームを円滑に運用する方法を理解する。	
内 容		備 考
1. チームにおける実践リーダーの役割	チームケアを推進する実践リーダーとはチームを構築し活性化し、円滑に運用する者であることを自覚する。	
2. チームの意味や目的、種類	チームの意味や意義等を踏まえた必要性を把握し、チームを構築する目的を理解する。 1) 対人援助するためのチームの特徴 2) 優れたチームに必要な条件	・チームワーク演習を通してチームを活性化する条件や要素、方法を体験的に理解する。
3. チームの構築や活性化するための運用方法	チームを構築し、活性化するための具体的な方法を理解し、それらの手法を用いたチーム活性化や運用方法を理解する。 1) 目標や方針の設定と管理 2) メンバー選定や編成方法 3) コミュニケーション支援 4) リーダーシップとマネジメント 5) 動機づけ 6) ストレスマネジメント 7) ミーティング 8) 教育指導	・チーム活性化のための方法を理解することのみにとどまらず、チームを構築するための役割を自覚する。

科目名	チームにおけるケア理念の構築方法	研修形態と講義時間： 講義・演習（240分）
目的	チームにおけるケア理念の必要性を理解し、ケア理念の構築とチーム内の共有化を図るための運用・展開方法を修得する。	
到達目標	1. チームにおける理念の意義や必要性を理解できる。 2. チームにおけるケア理念の構築方法を理解し、実践できる。 3. ケア理念の展開とその運用方法を理解し、チームにおけるケアの実践へ展開できるよう誘導することができる。	
概要	チームケアの促進においてケアの方向性を統一するためには、チームにおけるケア理念の構築とメンバー間の共有化が必要である。本科目はチームにおけるケア理念の構築方法を体験的に理解し、チームで方針や方向性を協働で構築し、共有化するための方法を学ぶ。	
	内 容	備 考
1. ケア理念の捉え方	ケア理念の意味を知り、具体的な認知症ケアにおけるケア理念の具体例や、重要性を理解する。 1) 理念の意義 2) 認知症ケアに対する理念の考え方 3) ケア理念の具体例	・実践者研修で学習したケア理念の重要性や意義について再確認する。
2. チームにおける理念の意義と必要性	チームを活性化する上での方針や方向性の明確化や共有化の重要性を踏まえて、チームケアにおけるケア理念の必要性について理解する。 1) チームにおけるケア理念の必要性 2) チームにおけるケア理念の共有化の意義 3) チームにおけるケア理念の活用と有効性	・チームケアを促進するための理念の有効性を学ぶ。
3. チームにおけるケア理念の構築の方法	チームケアの方向性の統一や共有化を目的としたチームにおけるケア理念の構築方法をグループワーク等の演習を中心として体験的に理解し、企画や運用の方法を学ぶ。 1) チームにおけるケア理念の構築方法 2) 構築方法に関する体験的理解	・演習によってケア理念の構築方法を体験し、チームの理念を構築する方法を学ぶ。
4. ケア理念の展開と運用方法	チームにおけるケア理念の構築だけでなく、ケア理念を実践に活用する方法や、チーム内で共有化するための方法、評価方法などの運用方法を理解する。 1) ケア理念と実践の関係 2) ケア理念の展開方法 3) ケア理念の共有方法 4) ケア理念の評価	・ケア理念とケアの目標やケア方法との関係について学び、理念を実践に活用できる方法を学ぶ。

科目名	実践者へのストレスマネジメントの理論と方法	研修形態と講義時間： 講義・演習（180分）
目的	チームケアを円滑に運用するため、ストレスの仕組みと対処法を理解した上で、実践リーダーとして実践者のストレスの緩和やメンタルヘルスのマネジメントを実践することができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームにおけるストレスマネジメントの意義と必要性を理解できる。 2. ストレスのしくみと対処法を理解できる。 3. 認知症ケアにおけるストレスと対処法を理解できる。 4. 組織のメンタルヘルス対策や実践リーダーが果たすべき役割を理解し、チームメンバーへの支援方法が実践できる。 	
概要	チームを活性化するためにはメンバー個々のストレス評価を行い、ストレス度や原因に応じたストレス緩和を実行することが必要である。本科目では、ストレス概念の理解やストレス理論を理解した上で、実践リーダーとしてチームメンバーのストレスを緩和する方法論や実践方法を学ぶ。	
内 容		備 考
1. チームにおけるストレスマネジメントの意義と必要性	<p>チームメンバーのストレスがチームケアの質の低下につながることを理解し、ストレス緩和によるチーム活性化の仕組みを踏まえたストレスマネジメントの意義と必要性を理解する。また実践者のメンタルヘルスの状態悪化が、利用者の生活に悪影響を与えることを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) チームにおけるストレスマネジメントの意義と必要性 2) ストレスの考え方 3) ストレッサーとなりうる職場環境 	
2. ストレスマネジメントの方法	<p>ストレスマネジメントの意義と必要性を踏まえて、認知症ケアにおける実践者のストレス要因を理解し、具体的なストレスマネジメントの方法を学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ストレスマネジメントの意義と必要性 2) ストレッサーとストレス反応 3) セルフケアの方法 4) 組織によるストレスマネジメントの方法 5) 環境の調整方法 	<p>・ストレス理論を踏まえて、実際のストレスマネジメントの方法を演習を通して体験的に理解する。</p>

科目名	チームケアのためのケースカンファレンスの技法と実践	研修形態と講義時間： 講義・演習（240分）
目的	チームケアの質の向上を図るため、カンファレンスの効果的な展開方法を身につけ、チームにおける意思決定プロセスの共有を実現することができる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. チームケアの質の向上を目的としたカンファレンスの目的や意義、必要性を理解できる。 2. チームにおける意思決定のプロセスの共有化を図る方法としてのカンファレンスのあり方を理解できる。 3. チームメンバーのケアを導く思考過程を振り返り、効果的な実践を促すためのケースカンファレンスの展開方法を理解できる。 	
概要	<p>チームケアを実現するためには、利用者のニーズに基づき導かれたケアの目的や目標に沿って決定したケアの方法について、その決定プロセスをチームメンバー間で共有することが必須である。ケアの決定プロセスなどを共有する方法の一つがケースカンファレンスであり、チーム内のコミュニケーション手段の一つでもある。本科目では、考察を深めるケースカンファレンスに必要な知識や技術を学習する。</p>	
内 容		備 考
1. チームケアにおけるカンファレンスの目的と意義	<p>チームケアにおけるカンファレンスの目的や意義、必要性を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) カンファレンスの目的や意義 2) ケースカンファレンスの目的や意義 3) チームケアにおけるケースカンファレンス 	
2. チームケアにおけるケアの決定過程と共有化	<p>ケースカンファレンスの目的や意義を踏まえて、ケアの決定過程の共有化に関する考え方や方法を学ぶ。</p>	
3. ケースカンファレンスを円滑に行うためのコミュニケーション	<p>ケースカンファレンスを円滑に進めるためのチーム内でのコミュニケーションの方法を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 報告・連絡・相談の違い 2) 建設的なコミュニケーションのポイント 	
4. 効果的なケースカンファレンスの展開	<p>ケースカンファレンスを効果的に実践するためのポイントを理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 事前準備（告知、開催目的の明確化、検討内容の通知、資料配布と議事録） 2) ケースカンファレンスの役割分担（司会、スーパーバイザー、参加メンバー） 3) 効果的な議論を促すためのポイント 	<p>・ケースカンファレンスの展開方法についてグループワークを通して実際に体験しながら理解する。</p>

科目名	認知症ケアにおけるチームアプローチの基本と実践	研修形態と講義時間： 講義・演習（180分）
目的	多職種や同職種間での適切な役割分担や連携にあたって、認知症ケアにおけるチームアプローチの方法を理解し、実践するための指導力を身につける。	
到達目標	1. 認知症ケアにおけるチームケアの意義と必要性を理解できる。 2. 認知症ケアにおけるチームの種類と特徴を理解できる。 3. 認知症ケアにおけるチームアプローチの方法を理解できる。	
概要	一般的なチームマネジメント手法について認知症ケアにおけるチームアプローチへの展開方法を理解する。ケアチームにおけるカンファレンス、目標や情報の共有、多職種の役割分担と連携、同職種の役割分担と連携等について在宅事例、施設入居事例などの実践事例の報告をもとに認知症ケアにおけるチームアプローチの方法を理解し、実践するための指導能力を高める。	
内 容		備 考
1. 認知症ケアにおけるチームアプローチの意義と必要性	認知症ケアの特性とチームアプローチの意義や必要性を理解する。 1) チームアプローチの理解 2) チームアプローチとチームケア 3) チームケアの意義 4) 認知症ケアにおけるチームケア	
2. 認知症ケアにおけるチームの種類と特徴	認知症ケアにおける多職種チームと同職種チーム等の特徴や役割分担の方法、長所と短所、認知症ケアへの有効性と留意点を理解する。 1) チームアプローチの形態 2) 多職種によるチームアプローチの役割と連携 3) チームアプローチにおける管理 4) 認知症ケアへの有効性と留意点	
3. 施設、在宅での認知症ケアにおけるチームアプローチの方法	事例を通して、同職種や多職種間での役割分担や、ケア目標の構築や共有方法、カンファレンスの方法、アセスメントやケア方法の統一等の連携方法を理解し、認知症ケアにおける効果的なチームアプローチの活用方法を学び、チームケアを効果的に実践するために必要な指導能力を高める。 1) 施設サービスにおけるチームアプローチ 2) 在宅サービスにおけるチームアプローチ 3) 関係機関へのチームアプローチ	・在宅と施設におけるチームケアの実践事例に基づきチームアプローチの方法を理解する。 ・チームの構築やチームアプローチに関する理論や方法を実際の認知症ケアにおいて活用する方法を学ぶ。

科目名	職場内教育（OJT）の方法の理解と実践Ⅰ （運用法）	研修形態と講義時間： 講義・演習（240分）
目的	認知症ケアの質の向上における人材育成の方法を理解し、特に職場内教育（OJT）の種類、特徴を踏まえた実際の運用方法を修得する。	
到達目標	1. チームマネジメントにおける人材育成の意義と方法を理解できる。 2. 認知症ケアにおける職場内教育（OJT）の意義を理解できる。 3. 職場内教育（OJT）の実践方法を理解できる。	
概要	チームを活性化しチームケアを向上する上で、実践者の知識や技術を高めるための教育や指導は不可欠である。実践者への指導や教育を担っている実践リーダーの指導能力はチームケアの質と強く関連しており、人材育成に関する知識や理論、方法を理解し実践力を高める必要がある。本科目は特に職場における実践者への指導計画の立案を通して職場内教育（OJT）の運用方法について学ぶ。	
内 容		備 考
1. 人材育成の意義と方法	実践者の知識、技術の向上を目的とした人材育成の意義や目的、種類、方法と特徴について学ぶ。 1) 人材育成の意義と目的 2) 人材育成の方法の種類と特徴 3) 課題に応じた人材育成の方法と効果	
2. 認知症ケアにおける職場内教育（OJT）の意義	職場における継続的かつ個別的な技術指導や教育の重要性を理解する。 1) 認知症ケアにおける職場内教育（OJT）の有効性 2) Off-JT、自己啓発（SDS）の限界と職場内教育（OJT）の効用 3) 認知症ケアの指導に必要な職場内教育（OJT）の技術	
3. 職場内教育（OJT）の実践方法	職場内教育（OJT）の計画立案の方法や目標管理の方法、評価の方法等について理解する。 1) 評価方法 2) 人材育成の課題設定 3) 目標設定 4) 人材育成の課題に応じた指導計画	・実践者の人材育成の事例について評価方法、指導目標設定、指導方法等の職場内教育（OJT）の計画立案の方法について演習を通して理解する。 ・特に認知症ケアの指導に限定しない職場内教育（OJT）の計画立案の過程について体験的に理解する。

科目名	職場内教育（OJT）の方法の理解と実践Ⅱ （技法）	研修形態と講義時間： 講義・演習（420分）
目的	実践者への指導に有効な技法の種類と特徴を理解し、職場で実践できる指導技術の基本を修得する。	
到達目標	1. 職場内教育（OJT）に必要な指導技術と人材育成の方法における有効性を理解できる。 2. 職場内教育（OJT）における有効な指導技法の種類と実際の方法を理解できる。 3. 認知症ケアの指導への活用と留意点を理解できる。	
概要	実践者の技術向上は、スーパービジョンや個別指導等の職場内の指導による教育が有効であり、実践リーダーには職場内教育（OJT）を実践しチームケアの質の向上を達成する役割が期待されている。本科目は、人材育成の方法における職場内教育（OJT）の技法の意義や方法と有効性を理解し、認知症ケアの指導技術の修得を目的としている。	
内 容		備 考
1. 職場内教育（OJT）に必要な技術の特徴と人材育成の方法における有効性	職場内における指導技術の必要性を理解し、技法ごとの目的や有効性などの特徴を踏まえた意義を理解する。 1) 人材育成における職場内教育（OJT）の位置づけ 2) 職場内教育（OJT）の有効性	
2. 職場内教育（OJT）における指導技法の理解	職場内教育（OJT）における実践できる指導技術について理解し、基本技法を修得する。 1) スーパービジョンの理論と方法 2) 面接技法の理解 3) ティーチングの理論と技法の理解 4) コーチングの理論と技法の理解 5) 職場内教育（OJT）において指導技法を活用する際の留意点	・演習を通して基本的な指導方法を体験し、指導技術を修得する。
3. 認知症ケアの指導における活用と留意点	指導技法を認知症ケアの指導に活用する際のポイントや留意点を理解する。 1) ティーチング、コーチング、面接技法の統合 2) 認知機能障害の把握 3) 倫理的配慮	

科目名	認知症ケアの指導の基本的視点	研修形態と講義時間：	講義・演習（60分）
目的	認知症ケアを指導する立場として、指導に関する考え方や基本的態度、認知症ケアの理念を踏まえた指導に必要な視点を理解する。		
到達目標	1. 認知症ケアに必要な実践者像を理解できる。 2. 認知症ケアの指導者像を理解できる。 3. 認知症ケアの指導に必要な視点を理解できる。 4. 認知症ケアの指導の意義を理解し、認知症ケアに関する指導科目の必要性を理解できる。		
概要	認知症ケアの指導に関する考え方や、心構え、指導上の留意点など認知症ケアの指導に関する基本的態度を学び、認知症ケアの理念を踏まえた指導理念や指導視点を理解する。		
	内 容	備 考	
1. 認知症ケアに必要な実践者像	認知症ケアの指導目標である実践者像を理解し、指導目標を自覚する。 1) 実践者に求められること 2) 実践者への指導の目標と留意点 3) 実践者に必要な知識、技術、態度の理解		
2. 認知症ケアにおける指導者像	認知症ケアの指導者像を理解し、指導理念の必要性を自覚する。 1) 実践リーダーに求められる基本的態度の理解 2) 実践者の指導の理念の理解		
3. 認知症ケアの指導に必要な視点	認知症ケアの指導観点を理解し、認知症ケアの指導に関する科目を学習するための意義を理解する。 1) 認知症ケアにおける倫理指導 2) 認知症ケアにおける権利擁護指導 3) 認知症ケアにおける食事・入浴・排泄等の介護技術指導 4) 認知症ケアにおける行動・心理症状（BPSD）への介護技術指導 5) 認知症ケアにおける家族支援指導 6) 認知症ケアにおける生活支援指導		

科目名	認知症ケアに関する倫理の指導	研修形態と講義時間： 講義・演習（120分）
目的	認知症ケアにおける倫理的課題の解決方法を理解するとともに、実践リーダーとして必要な認知症ケアの倫理の考え方や指導方法について理解する。	
到達目標	1. 倫理的課題の解決方法を理解できる。 2. 終末期ケアの倫理に関する視点を理解し、倫理的課題の解決方法を理解できる。 3. リスクマネジメントにおける倫理的課題を理解し、解決方法を理解できる。 4. 認知症ケアにおける職業倫理を理解できる。 5. 認知症ケアにおける研究に関する倫理的視点を理解できる。	
概要	介護保険法上の理念である自立支援、尊厳の保持の必要性に対して、認知症ケアにおける倫理的課題への対策が重視され、介護現場における恒常的な倫理教育の必要性が高まっている。本科目は実践リーダーとして必要な認知症ケアの倫理の考え方や指導の方法について理解する。	
内 容		備 考
1. 倫理的課題の解決方法	認知症介護における倫理的課題を理解し、効果的な解決方法を学ぶ。 1) 倫理的課題の理解 2) 倫理的な助言指導 3) 倫理的課題の解決方法	・ケアの事例を使用し倫理的課題の解決方法を理解する。
2. 終末期ケアの倫理	終末期ケアの倫理や倫理的課題を学ぶ。 1) 医学的視点・倫理的視点・本人意思・家族の意思代理判断・手続き的公正性・法的視点・社会的視点 2) 倫理的課題の理解	
3. リスクマネジメント	倫理的な視点を通して転倒事故等のリスクマネジメントによる対応方法を理解する。	
4. 職業倫理（利用者－実践者の関係）	利用者との信認関係等の職業倫理を理解する。	
5. 研究に関する倫理的視点	認知症ケアの研究等における倫理的視点を学び、その視点を踏まえた指導方法を理解する。	

科目名	認知症の人への介護技術指導（食事・入浴・排泄等）	研修形態と講義時間： 講義・演習（240分）
目的	実践者が適切な介護を行うため、食事・入浴などの基本的な生活場面において実践者に必要なアセスメントの視点や介護技術を評価するための考え方や指導方法を理解する。	
到達目標	1. 認知症の人の食事・入浴・排泄等への介護技術指導に関する指導目標の必要性を理解できる。 2. 認知症の人の食事・入浴・排泄等に関する実践者に必要なアセスメント視点と介護技術を理解し、実践者の介護を評価するための考え方や方法を理解できる。 3. 認知症の人の食事・入浴・排泄等への介護技術指導の実際を理解できる。	
概要	認知症の人にとって生活の基本的な行為である食事、入浴、排泄等への介護の指導方法を学ぶ。認知症の人の生活の安定を目的とする認知症介護において、身体介護だけでは対応が難しい認知症特有の介護に関する指導の考え方や方法を学ぶ。	
内 容		備 考
1. 実践リーダーによるケア指導の要点	実践リーダーに必要な能力を踏まえた指導目標の考え方を理解する。 1) 実践リーダーに必要なケアの指導の考え方 2) 知識・技術等の指導方法 3) 指導目標の明確化	
2. 認知症の人の食事・入浴・排泄等への介護技術に関する評価視点と方法	認知症の人の食事・入浴・排泄等への介護技術に関する実践者の知識・アセスメント・介護方法の評価視点と方法について学ぶ。 1) 食事・入浴・排泄等へのアセスメント能力の評価 2) 食事・入浴・排泄等への介護技術の評価 3) モニタリングと再度のアセスメント	・事例演習による体験的学習を通して認知症の人の食事・入浴・排泄等への介護技術の評価方法を理解する。
3. 認知症の人の食事・入浴・排泄等への介護技術指導の実際	認知症の人の食事・入浴・排泄等の課題への介護実践事例について、実践者指導の実際の過程を理解する。 1) 食事介護の指導例 2) 入浴介護の指導例 3) 排泄介護の指導例	・事例演習による体験的学習を通して認知症の人の食事・入浴・排泄等への介護技術への指導方法を理解する。

科目名	認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護技術指導	研修形態と講義時間： 講義・演習（180分）
目的	実践者が適切な介護を行うため、認知症の人の行動・心理症状（B P S D）に対する介護に必要なアセスメントの視点や介護の技術の評価するための考え方や指導方法を理解する。	
到達目標	1. 認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護技術指導における目標の必要性を理解できる。 2. 認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護に必要なアセスメントの視点と介護技術を理解し、実践者の介護を評価するための考え方や方法を理解できる。 3. 認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護技術指導の実際を理解できる。	
概要	認知症に伴う行動・心理症状（B P S D）への介護技術に関する指導観点や方法を学ぶことを目的に、認知症に伴う行動・心理症状（B P S D）への介護技術指導の方法を修得する。	
内 容		備 考
1. 認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護技術指導の目標	認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護に関する実践者に必要な知識、技術、態度に基づき、指導によって到達すべき実践者像を理解する。 1) 認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護目標 2) 認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護に必要な知識、技術、態度	
2. 認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護技術の評価に必要なアセスメントの評価視点と介護技術の評価視点	認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護に関する実践者のアセスメントや介護技術の評価方法について学ぶ。 1) 認知症に関する基礎知識の評価 2) 認知症の人の行動・心理症状（B P S D）へのアセスメント能力の評価 3) 認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護方法の評価 4) 実践者が自ら行う認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護方法に対する評価	・事例演習による体験的学習を通して認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護の評価方法を理解する。
3. 認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護技術指導の実際	実践者による介護実践事例について、実践者の介護技術の評価、指導課題の明確化、指導目標の設定、指導内容の実際を理解する。 1) 認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護技術に関する個別課題の明確化 2) 認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護技術に関する指導目標の設定 3) 認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護技術に関する指導視点と方法	・事例演習による体験的学習を通して認知症の人の行動・心理症状（B P S D）への介護の指導方法を理解する。

科目名	認知症の人の権利擁護の指導	研修形態と講義時間： 講義・演習（240分）
目的	認知症の人の権利擁護に関する指導目標、知識や技術の評価方法や指導方法を理解する。認知症ケアにおけるリスクマネジメントの指導の視点を理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症の人の権利擁護に関する指導目標を理解できる。 2. 認知症の人の権利擁護に関する知識や技術の評価方法を理解できる。 3. 認知症の人の権利擁護に関する教育指導方法を理解できる。 4. 認知症による生活リスクを低減するためのリスクマネジメントに関する指導の基本的な視点を理解できる。 	
概要	認知症ケアに当たる実践者に対して、認知症の人の権利擁護に関する基本的知識を理解させ、介護サービスの中で権利擁護を実践するための指導方法を学ぶ。特に、虐待等の権利侵害等の防止について、人材育成の観点から具体的な指導方法を修得する。また、認知症によって生じる生活へのリスクを低減するためのリスクマネジメントに関する指導の重要性を理解する。	
	内 容	備 考
1. 認知症の人の権利擁護に関する指導目標	<p>権利擁護を行う上での基本的態度や必要な知識、技術に基づく実践者像や指導目標を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 認知症の人の権利を擁護する専門職等の役割や意味 2) 権利擁護に必要な知識や技術 	
2. 認知症の人の権利擁護に関する教育指導方法と評価の観点	<p>権利擁護に関する知識や技術に関する評価視点と方法を踏まえ、虐待防止のためのアセスメントに関する評価方法や、虐待防止や対応に関する教育法を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 必要な教育内容と指導方法の枠組み 2) O f f – J Tの企画・運営・評価の方法 3) 施設・事業所内における職場内教育（O J T）による権利擁護の教育指導 4) 在宅等地域における職場内教育（O J T）による権利擁護の教育指導 	<ul style="list-style-type: none"> ・重篤な権利侵害である虐待防止や身体拘束を中心に実態、原因、アセスメントの視点や方法、対応方法に関する評価、指導のポイントを重点的に理解する。 ・事例演習による体験的学習を通して、実践者への評価や指導観点を学ぶ。
3. 認知症による生活リスクを低減するためのリスクマネジメントに関する指導の基本的な視点	<p>認知症によって生じる生活へのリスクを低減するためのリスクマネジメントに関する指導の基本的な視点を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 認知症ケアにおけるリスクマネジメントとケアマネジメントや権利擁護 2) リスクマネジメントの意義 3) リスクマネジメントにおける教育指導の留意点 	

科目名	認知症の人の家族支援方法の指導	研修形態と講義時間： 講義・演習（180分）
目的	認知症の人の家族支援に関する指導目標、知識、技術の評価方法や指導方法を理解する。	
到達目標	1. 認知症の人の家族支援に関する指導目標を理解できる。 2. 認知症の人の家族支援に関する知識や技術に関する実践者の評価視点や方法を理解できる。 3. 認知症の人の家族支援に関する教育指導方法を理解できる。	
概要	認知症の人の介護家族の負担を軽減し、身体的、精神的な健康状態を維持することは認知症の人の自宅での生活継続のみならず、施設入居の認知症の人の精神面の安定にとっても必要不可欠である。本科目では実践者の家族支援に関する技術を向上させるための指導方法を理解する。	
内 容		備 考
1. 認知症の人の家族支援方法	家族支援に必要な知識や技術を踏まえた実践リーダーの役割や機能を理解し、指導者像を学ぶ。 1) 家族支援における実践リーダーの役割 2) 介護保険施設・事業所それぞれの家族介護者の支援	
2. 家族介護者の評価	家族支援に必要な知識と技術に関する評価視点と評価方法を理解する。 1) 家族関係の評価方法 2) 介護負担感と評価 3) 介護の肯定的評価 4) 介護ストレス軽減のプロセスと整理 5) 男性介護者特有の課題と支援	
3. 実践者の認知症の人の家族支援に関する指導方法	実践者の認知症の人の家族支援に関する指導方法を理解する。 1) 家族の心理段階に合わせた支援 2) 家族への教育的支援の方法 3) 介入による支援方法	

科目名	認知症の人へのアセスメントとケアの実践に関する指導	研修形態と講義時間： 講義・演習（240分）
目的	認知症の人の生活の質を向上させるため、アセスメントやケアの実践に関する評価方法や指導方法を身につける。	
到達目標	1. 認知症の人へのケアの実践に関する指導目標を理解できる。 2. 認知症の人へのアセスメントやケアの実践能力の評価視点と方法を理解できる。 3. 認知症の人へのアセスメントやケアの実践に関する指導方法を理解できる。	
概要	認知症の人の能力に応じた自立支援を目的として、行動・心理症状（BPSD）の緩和や食事・入浴・排泄等へのケアなどの生活障害の解消を踏まえた上で、認知症の人の生活の質の向上のための支援方法への指導方法を学ぶ。	
内 容		備 考
1. 認知症の人へのケアの実践に関する指導目標の理解	認知症の人の生活の質の向上のための基本的態度や知識、技術に基づく実践者像や指導目標を理解する。 1) 生活支援における実践者の役割と意味 2) 生活支援に必要な知識や技術に基づく実践者像 3) 生活支援の指導目標	
2. 認知症の人へのアセスメントやケアの実践能力に関する評価方法の理解	生活支援に必要な知識、アセスメント能力、ケアの実践に関する評価方法について理解する。 1) ケア目標の評価視点と方法 2) アセスメント能力の評価視点と方法 3) ケア方法の評価視点と方法 4) ケア評価の評価視点と方法	・認知症ケアの実践事例について、ケアの実践能力の評価、ケア課題の抽出、課題に応じた指導目標の立案の演習を体験し、認知症の人へのケアの実践に関する指導の実際を理解する。
3. 認知症の人へのアセスメントやケアの実践に関する指導方法の理解	実践者の生活支援の方法に関する課題の抽出、指導目標の立案、課題に応じた指導視点と指導方法を理解する。 1) ケア目標の指導視点と方法 2) アセスメントの指導視点と方法 3) ケア方法の指導視点と方法 4) ケア評価の方法に関する指導視点と方法	

科目名	自施設及び他施設実習の課題設定	研修形態と講義時間：講義・演習(420分)
目的	研修に学んだ内容を生かして、自施設の実践者の認知症ケアの能力の評価方法を理解する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実践者における認知症ケアの能力に関する評価方法を立案することができる。 2. 講義、演習で学んだ内容を活用することができる。 3. 認知症ケアの指導に関する実習計画を立案することができる。 4. 他施設実習を通じて、実践者における認知症ケアの能力に関する評価方法や認知症ケアの指導に関する実習計画の立案に向けて、他施設実習で学びたい課題を設定することができる。 	
概要	<p>認知症介護実践リーダー研修の科目を踏まえて、自施設における実践者の認知症ケアに関する知識、技術、態度の向上を目的とした教育、指導を実践し、認知症ケアに関する指導法の実際を体験的に理解するため、本科目では実践者の認知症ケアの能力を評価する方法を立案する。また、他施設実習を通じて、実践者における認知症ケアの能力に関する評価方法や認知症ケアの指導に関する実習計画の立案方法の理解を深めるための課題を設定する。</p>	
内 容		
	備 考	
1. 実践者の認知症ケアの能力に関する評価方法の理解	<p>実践者の認知症ケアに関する知識、技術、態度に関する現状を分析するために、指導対象となる実践者の選定、認知症ケアの能力を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実践者の認知症ケアに関する知識、技術、態度に関する現状分析 2) 指導対象となる実践者の選定 3) 実践者の認知症ケアの能力の評価方法の立案 4) 実習計画の作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の前段階として、実習計画を立案し、実践者の評価の方法に基づいた評価ツールを作成する。
2. 認知症ケアの能力の評価項目を踏まえた評価方法の立案	<p>実践者の認知症ケアに関する知識、技術、態度に関する評価項目と評価方法の立案手順を学び、指導のための準備方法を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 認知症の基本的知識への評価方法の立案 2) ケア目標への評価方法の立案 3) アセスメント方法への評価方法の立案 4) ケア方法への評価方法の立案 5) ケアの評価に関する評価方法の立案 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症介護実践リーダー研修の学習内容を評価に活用する方法を学ぶ。
3. 認知症ケアの指導に関する実習計画の立案	<p>実習方法に関する計画を立案し、実習手順と実習目標を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 実習目標 2) 実習計画 3) 実習中の資料作成 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習のタイムスケジュール（自施設・他施設）を作成し、実習の目標と流れを理解する。
4. 他施設実習での課題立案	<p>実践者に係る評価方法や実習計画の立案に向けて、他施設実習で学びたい課題を設定する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の視点に立つことを常に心掛けながら展開。

科目名	自施設実習	研修形態と講義時間： 実習（18日間）
目的	研修で学んだ内容を生かして、自施設の実践者の認知症ケアの能力の評価、課題の抽出、指導目標の設定や指導計画を作成し、指導計画に基づいた認知症ケアを指導する。	
到達目標	1. 実践者の認知症ケアの能力の評価と課題の抽出を行うことができる。 2. 実践者の認知症ケアにおける指導目標を立案することができる。 3. 指導目標に応じた指導計画を作成することができる。 4. 講義、演習で学んだ指導方法を実際に活用することができる。	
概要	実践リーダー研修の科目を踏まえて、自施設における実践者の認知症ケアに関する知識、技術、態度の向上を目的とした教育、指導方法の実際を理解するため、本科目では認知症ケアの課題に応じた指導計画の作成を体験的に理解し、職場内での指導方法の理解を深める。	
内 容		備 考
1. 認知症ケアの能力の評価と課題の抽出方法	認知症ケアの能力の評価を実行し、実践者の認知症ケアに関する課題を明確にする方法を理解する。 1) 認知症ケアに関する知識、技術、態度の評価 2) 評価に基づく認知症ケアの課題の抽出	・実践リーダー研修の学習内容を職場内の指導に活用する方法を学ぶ。
2. 指導目標の立案方法の理解	認知症ケアの課題に応じた指導目標の立案の方法を理解する。	
3. 指導目標に応じた指導計画の作成	指導目標に応じた指導視点や方法に関する指導計画の作成の方法を理解する。	
4. 指導計画に応じた指導の実施	指導計画に応じた指導方法を理解する。 1) 基本的知識に関する指導の実践 2) ケア目標やアセスメント方法への指導の実践	

科目名	他施設実習	研修形態と講義時間： 実習 2 日間
目的	他の介護保険事業所（以下、「他施設」という。）への 2 日間の現場実習を通して、自己の設定した課題の達成をめざし、その成果を得ること。	
到達目標	1. 他施設の特徴や地域における役割を学ぶことができる。 2. 他施設実習を通じて、実践者における認知症ケアの能力に関する評価方法や認知症ケアの指導に関する実習計画の立案方法の理解を深めることができる。 3. 他施設の認知症介護指導者及び認知症介護実践リーダー研修修了者とネットワークを構築することができる。	
概要	他施設の現場実習を通じて、認知症介護指導者及び認知症介護実践リーダー研修修了者から、他施設の特徴や地域における役割を学ぶとともに、実践者における認知症ケアの能力に関する評価方法や認知症ケアの指導に関する実習計画の立案方法の理解を深めることができる。	
内 容		
1. 実習の準備	他施設実習において、学びたい課題について説明する。	・他施設実習担当者は受講生が設定した課題について、可能な限り実習の中で行うことができるように配慮する。
2. 他施設実習先の概要説明	実習施設の概要の説明を聞く。 1) 実習施設の概要や特色を学ぶ。 2) 実習施設の地域における役割を学ぶ。	・他施設実習担当者は、事業所の概要等を説明する。
3. 現場実習	実践者における認知症ケアの能力に関する評価方法や認知症ケアの指導に関する実習計画の立案方法等について、自己が設定した課題を中心に実習する。	・認知症介護指導者及び認知症介護実践リーダー研修修了者は、受講生の計画に沿った指導を行う。
4. 現場実習の記録	他施設実習の行動内容や学んだことを記録する。	
5. 現場実習の振り返り	他施設実習で学びを振り返り、認知症介護指導者から助言を得る。	

科目名	結果報告／自施設実習及び他施設実習評価	研修形態と講義時間：講義・演習(420分)
目的	自施設・他施設実習を通して、認知症ケア指導の方法に関する課題やあり方について客観的・論理的に考察・報告し、実践リーダーとして指導の方向性を明確にできる。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 認知症ケアの指導実習における学びを通し、認知症ケアの指導方法の課題やあり方について客観的・論理的に考察し、報告することができる。 2. 実践リーダーとして、実践者への認知症ケアの指導の課題を評価し、指導の方向性を明確にすることができる。 	
概要	認知症ケア指導に関する実習を踏まえて、実習報告への評価によって、自施設における実践者の認知症ケアに関する知識、技術の向上を目的とした教育指導方法の課題や今後の方向性を明確にする。	
	内 容	備 考
1. 認知症ケア指導の実践方法に関する課題の整理と考察	<p>実習結果の整理および報告を通し、講師からの評価等によって認知症ケアの指導実習における課題を整理、分析し、認知症ケアの指導における課題を認識する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 結果報告と評価 2) 認知症ケア指導における課題分析 3) 認知症ケア指導における課題の明確化 4) 他施設実習先の学びについて報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習内容を整理し、実習内容に関する課題を分析し報告する。
2. 認知症ケア指導に関する方向性の明確化	<p>認知症ケアに関する指導の特徴と課題を認識し、今後の認知症ケアの指導における学習目標と学習内容を明確にする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・報告内容を評価することによって、指導技術に関する課題を認識し、今後の学習目標を明確にする。